

事務事業評価表（公共施設）

1次評価日（主幹等） 26年3月31日

2次評価日（課長等） 26年3月31日

1 事業名	塩嶺野外活動センター管理事業			コード	102301	
2 担当部課	部等	教育委員会	課等	生涯学習課（生涯学習活動センター）	作成者	小口 明彦
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	生涯学習の推進	施策	青少年の健全育成	
		予算科目	塩嶺野外活動センター管理事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市塩嶺野外活動センター条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	青少年をはじめとする全利用者に対して、自然に親しみながら野外体験活動を通じて豊かな情操を培い、心身の健全な育成を図ることができるよう、センターハウス、キャンプ場等の施設の適切な維持管理を行う。		
目的	対象者	市民	
	意図	自然に親しみながら野外体験活動を通じて豊かな情操を培い、心身の健全な育成を図る。	

5 施設の管理運営状況			
指定管理者	なし	25年度指定管理料	円
施設における通常業務	<ul style="list-style-type: none"> ・開館期間 5月～10月(6ヶ月間) ・休館日 毎週月曜日（但し月曜日が祝日の場合はその翌日） ・センターハウス、キャンプ場の維持管理 ・マレットゴルフ場の維持管理 		
事業の実施内容	<p>(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度利用者へ開館のお知らせを送り、利用の促進を図った。 		
前年度の課題への対応	老朽化に伴う修繕の必要箇所においては随時対応している。		

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	56.3%	50.9%	38.7%	
年間開設日数（日）	158	163	159	158
1日の開設時間（時間）	24	24	24	24
年間利用可能時間（時間）	3,792	3,912	3,816	3,792
年間利用実績（時間）	2,135	1,993	1,476	
② 年間利用者数（人）	2,126	2,702	2,391	2,400
有料利用者数	954	1,266	880	1,000
無料利用者数	572	623	771	600
減免措置者数	600	813	740	800
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	13.5	16.6	15.0	15.2
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	4,226,109	6,349,821	4,965,060	5,176,000
経常経費	4,226,109	4,926,567	4,925,160	5,176,000
臨時的経費	0	1,423,254	39,900	0
* 臨時的経費の説明	使用申込書印刷代			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	2,400,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000
正規職員の人数(人)	0.30	0.40	0.40	0.40
③ 合計コスト(①+②)	6,626,109	9,549,821	8,165,060	8,376,000
前年度比		144.1%	85.5%	102.6%
財源	5,765,359	8,281,291	7,610,660	7,357,000
内訳				
一般財源	5,765,359	8,281,291	7,610,660	7,357,000
特定財源	860,750	1,268,530	554,400	1,019,000
* 特定財源の説明	施設使用料、シーツ等実費徴収金、使用電話料収入			
④ 施設使用料年間収入額	821,250	1,190,500	495,400	960,000
⑤ 年間減免措置額	279,000	542,100	331,500	330,000
⑥ 受益者負担割合	26.0%	27.3%	16.7%	24.9%
⑦ 活動一単位あたりコスト	3,117	3,008	3,398	
前年度比		96.5%	113.0%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

低い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比 90.7%	0
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比 41.6%	0

●改善の内容(ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に伴い、修繕箇所が増えてきている。 マレットゴルフ場の整備について、専門的な知識がないため整備が不十分である。 	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	<ul style="list-style-type: none"> 修繕が必要かどうか定期的に確認をし、随時対応できるようにする。 マレットゴルフ協会の協力を得て、利用者が気持ちよく利用できるように徐々に整備する。 	
改善開始時期	平成26年4月	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
	予定事業費	円	予定時期
内容			